

ホリスティック ドクター 最前線

vol.14

メディカルアンドナレッジカンパニー
佐野正行 医師

10歳の時、大腸が荒れて水分が吸収できなくなる病気を患ったことをきっかけに、健康でいることの大切さや、体への負担が心に大きな影響を及ぼすこと、そして医師をはじめとする医療スタッフの仕事が人々に大きな希望を与える素晴らしい仕事をすることを知り、医師を志しました。医学部卒業後、消化器外科医として3000以上の手術に携わり、病気の予防と原因（病気の背景）に対するアプローチ、治療成績を上げて再発防止と未病に繋げることを大切に、誇りを持って全力で医療に取り組んできました。しかし、病気になってからが医師の仕事であるとともに、「病気＝人の不幸」の上に成り立っていることに気付き、健康医療に関する本物の情報を学び必要な人々に届けたい」「健康＝人の幸福」を提供したい」という想いが生まれ、震災後の2011年4月にメディカルアンドナレッジカンパニーを起業し、さまざまな健康医療への活動に取り組み始めました。

医師は自身の専門分野に関しては詳しいですが、それ以外の分野はあまり詳しくありません。また外科医は「手術をすること」が仕事ではありますが、患者様に手術や検査の説明をしたり、不安な心に寄り添うために一番重要なことは「コミュニケーション」です。それは、医師が患者様や医療ス

病気になってから薬などに頼る対症療法が定着化している中、その根本をさまざまなアプローチをしていくホリスティック医療。今回は、そんな総括的な活動を幅広くされている佐野ドクターの取り組みをご紹介します。

10歳の時、大腸が荒れて水分が吸収できなくなる病気を患ったことをきっかけに、健康でいることの大切さや、体への負担が心に大きな影響を及ぼすこと、そして医師をはじめとする医療スタッフの仕事が人々に大きな希望を与える素晴らしい仕事をすることを知り、医師を志しました。医学部卒業後、消化器外科医として3000以上の手術に携わり、病気の予防と原因（病気の背景）に対するアプローチ、治療成績を上げて再発防止と未病に繋げることを大切に、誇りを持って全力で医療に取り組んできました。しかし、病気になってからが医師の仕事であるとともに、「病気＝人の不幸」の上に成り立っていることに気付き、健康医療に関する本物の情報を学び必要な人々に届けたい」「健康＝人の幸福」を提供したい」という想いが生まれ、震災後の2011年4月にメディカルアンドナレッジカンパニーを起業し、さまざまな健康医療への活動に取り組み始めました。

医師は自身の専門分野に関しては詳しいですが、それ以外の分野はあまり詳しくありません。また外科医は「手術をすること」が仕事ではありますが、患者様に手術や検査の説明をしたり、不安な心に寄り添うために一番重要なことは「コミュニケーション」です。それは、医師が患者様や医療ス

タッフと最高の信頼関係を築くに努めています。クリニック代々木では、そのようなコミュニケーションを学び、広げながら、患者様との関わりを大切にしています。

健康な暮らしを送るには、衣食住・労働環境・資産運用・生き方・死の方・人間関係など、全ての分野を整えることが必要です。そのためには、医療だけでなく健康に関する全ての分野ことを知っている医師になつて違う分野を繋ぐことにより、より適切なサービスを提供できると考えます。そのため、医師や医療スタッフがコミュニケーション・採血結果の読み方・サービス・経営を学べる場と仕組みを提供しています。